令和７年度病害虫発生予察指導情報

対象病害虫：イネいもち病（苗いもち）、イネもみ枯細菌病（苗腐敗症）

育苗期における苗いもちおよび苗腐敗症の予防防除の徹底について

令和７年４月１８日
鳥取県病害虫防除所

４月１７日発表の１ヶ月予報によると、向こう１ヶ月の平均気温は確率５０％で高いと予想されている。この時期の高温は、育苗期のいもち病（苗いもち）、もみ枯細菌病（苗腐敗症）等の発生を助長する。これらの病害は発生後の防除が困難であることから、以下のとおり適切な育苗管理を行うとともに、予防防除を徹底する。

１　苗いもちおよび苗腐敗症の発生リスクが高い地域および条件

（１）ハウス育苗（苗いもちは特に５月下旬以降に移植するもの）
（２）育苗期の気温が高い年
※苗いもちは以下の地域および条件についても注意が必要である。
①昨年いもち病が多発生した地域、②これまでに苗いもちが発生したことがある地域、③６月以降に移植の露地育苗。

２　苗いもちおよび苗腐敗症の予防防除

（１）適切な種子予措および育苗管理

浸　　種	・12～15℃の水道水で、十分に浸種する。 ・換水は、２日程度の間隔で行う（温湯消毒種子を使用時）。
催　芽 出芽処理	・適切な温度（30℃程度）で行い、過度の高温および処理期間の長期化は避ける。
育苗準備	・稲わらやもみ殻等を持ち込まない（いもち病菌が付着している可能性があるため）。 ・清潔な場所で種子の保管や育苗を行う。
は　　種	・厚まきは発生を助長するため、適切なは種量とする。 ・種もみが露出すると苗いもちの発生を助長するため、覆土を適切に行う。
育苗管理	・灌水は水道水等のきれいな水で行い、過灌水は避ける。 ・高温多湿は避ける（ハウス育苗は特に注意）。 ・育苗期間の長期化は苗いもちの発生を助長するため、適切な期間で育苗する。

※ 比重選を行っていない場合は、比重選（塩水選等）を行う（JA 購入種子は比重選済み）。
温湯消毒を行っていない種子は薬剤による種子消毒を行う。

（２）は種後覆土前、育苗期の薬剤防除

処理時期	薬剤名（希釈倍数等）	備　　考
は種後覆土前	カスミン液剤（４倍、50 ㎖/箱） カスミン粒剤（15～20 g/箱）	・苗いもちに登録があるのはカスミン液剤のみ。

※苗いもちに対しては以下の薬剤防除も有効。

処理時期	薬剤名（希釈倍数等）	備　　考
育　苗　期 （本葉1.5～2葉期）	ダブルカットフロアブル（1,000倍） ブラシンフロアブル（1,000倍）等	・展着剤を加えて散布。 ・いもち病に効果のある粉剤でも防除可能。 ・カスミン剤をは種時に処理した場合は、ダブルカットフロアブル等のカスガマイシンを含む薬剤を使用しない。

（３）その他の参考事項

ア　苗いもちは本田における重大な葉いもち発生源となるだけではなく、多発生した苗を移植すると本田で枯死する。また、発病初期もしくは潜伏期間中の苗を発病に気づかないまま移植した場合は、大規模なずり込みにつながる。

イ　苗いもち発生苗を移植した場合は、抵抗性誘導型等の育苗箱施用剤（イソチアニル剤、プロベナゾール剤等）を使用していても、十分な葉いもち防除効果が得られないことがある。

ウ　育苗期には、イネ苗立枯病も発生するため、病害虫防除指針等を参考にして、薬剤による予防防除を徹底する。